

夢中になって遊ぶ幼児の“時”を意識して ～つくって遊ぶ場面から環境構成と援助を考える～

ご指導いただいた先生

淑徳大学総合福祉学部教授
榎 英子氏（令和6・7年度）

令和6年度（保育記録について）

國學院大學人間開発学部助教
中野 圭祐氏

研究に携わった教職員

園 長	原 麻弓	中村 咲希
幼稚園教諭	フリー	村田 喜代子
	3歳児担任	前田 裕美
	4歳児担任	宇野 友莉子
	5歳児担任	河村 香織
	長時間保育担当	高橋 潤子
子供園保育職	佐野 恵	牟田口 美穂子
	高橋 千秋	
	清水 裕美	

令和6年度

園 長：五十嵐 美緒子
長時間保育担当：宮尾 華菜子

【参考文献】

- 榎英子 「保育をひらく造形表現」 萌文書林2008年
- 榎英子・末永昇一・木下和彦 「ふしぎだね。きれいだね。たのしいね。」 学校図書2021年
- 矢生秀仁 「造形活動が変わる」 メイト 2024 年
- 『新 幼児と保育』編集部 協力:磯部錦司 「子どもとアート」 小学館 2018 年
- 内野務 「造形素材にこわしい本」 日本文教出版 2016 年
- 公益財団法人「美育文化ポケット」NO18 2018 年・NO31 2021 年
- 佐治晴夫・勝岡田明子・細田直哉 「あそんでまなぶ わたしとせかい」 株式会社みらい2018年
- 小川博久 「遊び保育論」 萌文書林2010年
- 小川博久 「保育援助論（復刻版）」 萌文書林2010年



〒168-0073 東京都杉並区下高井戸4-38-15
TEL.03-3303-9485 FAX.03-3303-9492
<https://www.suginami-school.ed.jp/shimotakaidokodo/>

杉並区立下高井戸子供園

ご挨拶

杉並区教育委員会 教育長

渋谷 正宏



幼児期の“時”は、かけがえのないものです。

幼児期に子どもたちは、家庭における親しい人間関係を軸にして営まれていた生活から、より広い世界に目を向け始め、生活の場、他者との関係、興味や関心などを急速に広げながら依存から自立へと向かっていきます。この時期の子どもたちは、身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、充実感や満足感を味わうという体験を通して成長していきます。無自覚かもしれませんが、子どもたちは日常の一瞬一瞬から多くのことを学んでいます。

本園の研究は、そんな幼児期における“時”に注目し、その瞬間、瞬間に、環境の構成も含めてどのような援助ができるかを追究したものです。本園では、特定の時期だけではなく、全ての教育活動を通して研究を継続することで、様々な“時”における環境構成や援助の在り方について、その成果を積み上げています。本報告書は、それぞれの“時”に応じた手だてが具体的にまとめられており、今後の就学前教育に大きく貢献するものとなっております。

本園の研究成果が、区内はもとより、多くの就学前教育施設における教育・保育に生かされ、夢中になって遊ぶ子どもたちの“時”がより充実したものになっていくことを願っております。

はじめに

杉並区立下高井戸子供園 園長

原 麻弓



本園は杉並区教育委員会教育課題研究指定園として、令和6・7年度の2年間にわたり、「夢中になって遊ぶ幼児の“時”を意識して」を研究主題として研究を進めてまいりました。

幼児期は、遊びを通して豊かな感性や社会性、思考力が育まれる大切な時期です。子どもたちが自らの興味や意欲をもって夢中になり自由に表現できる環境づくりは、幼児教育における重要な使命であり、こうした体験は小学校以降の学びの基盤となり、一人ひとりの将来の豊かさや自己実現へとつながると考えています。

五十嵐前園長のもと始まった2年におよぶ本研究では、「子どもたちがつくって遊ぶ」場面に焦点を当て、その環境構成や援助の在り方について考察を深めてまいりました。教職員皆で幼児の夢中を探し集め、理解を深めながら、教材研究にも取り組み、幼児がつくって遊ぶ中で夢中になる姿を支える環境について学んでまいりました。取り組んできた実践や協議を進める中での気づきを、研究としてどのようにまとめていくかについても多くの学びを得ることができました。

教職員一同、日々の保育においてこの研究成果を生かし、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。

この研究を進めるにあたり、淑徳大学教授 榎英子先生には幼児の表現に関する考え方や素材、用具のいろいろな使い方等について、いつも温かく丁寧に指導いただきました。教職員皆が、幼児の表現について新たな気づきを得たり理解を深めたりし、明日の保育に向かって私たち自身も夢中になるようなご助言をいただきました。また、國學院大學助教 中野圭祐先生には本研究を深めるための保育記録についてご教示いただきました。心より御礼申し上げます。そしてこのような学びの機会を与えてくださいました杉並区教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

研究主題

夢中になって遊ぶ幼児の“時”を意識して
～つくって遊ぶ場面から環境構成と援助を考える～

▶ 研究主題設定の理由

幼児期の教育は環境を通して行うものであり、幼児が身近な環境に興味をもって関わりながら様々な活動を展開し、夢中になって遊ぶ中で充実感や満足感を味わう体験を積み重ねていくことを大切にしている。幼児はまず、「何だろう?」と対象に興味をもち、「自分もやってみよう。」と取り組み始める。その上で「どうしてだろう?」と不思議に思い、「こうしたらどうなるだろう?」と試したり、「こっちでも使えるかもしれない。」「こうすればもっと面白くなるかもしれない。」と別の考えを取り入れたりしながら夢中になって遊ぶ。その中で「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の「幼児教育において育みたい資質・能力」は育まれていくと考える。

本園ではこれまで保育室の製作コーナーの充実やつくって遊ぶ楽しさについて園内で研究を進めてきた。製作コーナーに材料や用具を整備し、幼児がつかうことを楽しめる環境を工夫した。その結果、幼児は遊びに必要なものを自らつくり、遊びのイメージを広げ、つくったものを通して遊びの楽しさを友達と共有するなど、遊びを展開する姿が見られるようになった。このような幼児の姿から、幼児が夢中になって遊ぶためには環境が重要であることを実感した。教師はそのような実感をもちつつ、一方で幼児理解をもとにした環境構成や援助の難しさを感じることもあった。そこで、本研究では、幼児がつくって遊ぶ場면을幼児の“時”から捉え、夢中になって遊ぶ幼児を支えるための環境構成と援助について理解を深めたいと考え、研究主題を設定した。

▶ 研究内容

研究を進めるにあたり、夢中になって遊んでいる幼児の具体的な姿について園内で話し合い、夢中になって遊ぶ幼児の姿には、「であい」「つながり」「ひろがり」の3つの“時”があると捉えた。それぞれの“時”の内容は次のとおりである。

- 【であい】 人・モノ・コトにであい、興味や好奇心をもち、自ら感じたり、繰り返したりして夢中になっている“時”
 【つながり】 人・モノ・コトとつながり、考えたり、工夫したり、表現したりして友達や教師と一緒に夢中になっている“時”
 【ひろがり】 人・モノ・コトがひろがり、よりよくしようとこれまでの体験や別の考えを取り入れて夢中になっている“時”

この「であい」「つながり」「ひろがり」の3つの“時”から幼児の姿や遊びの理解を深め、環境構成や援助の在り方を探り、遊びの充実を図りたいと考えた。

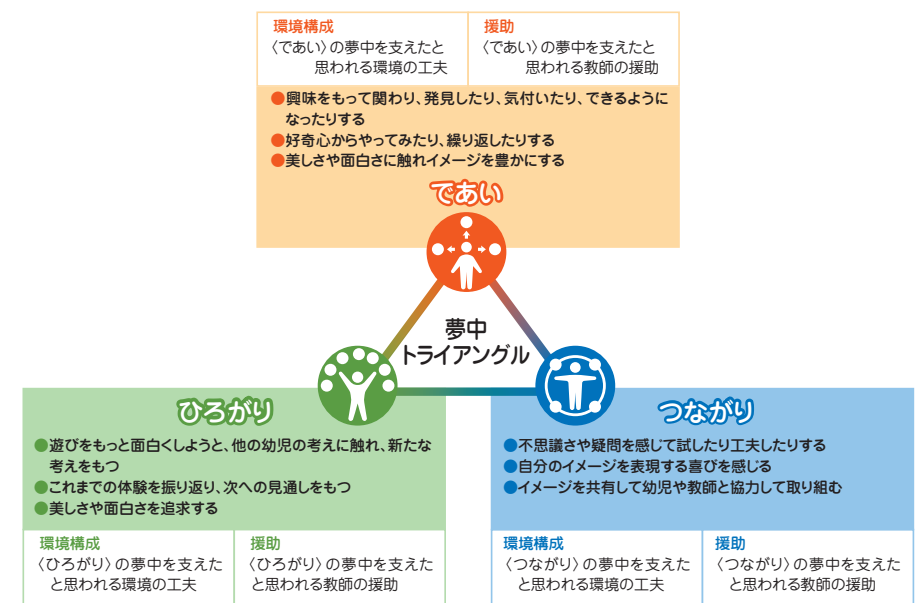
▶ 研究方法

本研究では、幼児は3つの“時”を行き来しながら遊びを進めていくと考え、3つの“時”を三角形に配置した「夢中トライアングル」を作成して事例分析と教材研究を進めることとした。

事例分析では、夢中になって遊んでいると教師が感じた幼児の姿をエピソード記録として記述し、3つの“時”に該当する幼児の姿を抜き出し、「夢中トライアングル」を活用して夢中を支える環境構成と援助を考えた。環境構成では教師の願いに沿った場の使い方の工夫や素材、用具について、援助では幼児に対する教師の行動や言葉掛けについて考察し、よりよい保育の在り方を探った。

また、3つの“時”を視点にした教材研究を行い、幼児と教材の関わりについて理解を深めた。

事例分析 夢中トライアングル



事例1 3歳児 9月「カマキリになりたい!」

幼児の夢中の“時” **であい** **つながり** **ひろがり**

▶ 幼児の育ち

自分のやりたいことや興味のあることを教師や他の幼児と楽しむ時期

▶ 前日までの幼児の姿

教師との信頼関係を基盤に安心して過ごし、自分から製作コーナーでつくるようになってきた。製作コーナーに設定しているはさみやセロハンテープ、広告紙を丸めた棒(くるくる棒)やいろいろな形に切り抜いた色画用紙など、1学期から使っている素材や用具を使い、それぞれの幼児が繰り返しつくることを楽しんでいる。使ったことがあるもの、つくったことがあるものには安心して取り組む。

▶ 教師の願い

○自分なりにモノや場に関わって遊ぶ中で、他の幼児の姿や自分でつくったものをきっかけに、見立てる楽しさを感じてほしい。

▶ 製作コーナー

*扱いやすく少し手を加えれば何かに見立てられる素材や用具を準備する。

*素材は不足したら補充できるよう、近くに準備しておく。

- ・牛乳パックをメガネ型にくり抜いてカラーセロハンを貼ったもの・お面ベルト
- ・丸、三角、四角や細長い形で扱いやすい大きさの色画用紙・10cm位に切った紙テープ
- ・トイレットペーパーの芯・広告紙を丸めた棒(くるくる棒)・付箋・セロハンテープ

▶ 幼児の姿

登園時に園庭の雑草の茂みで保護者が大きなカマキリを見付け、保育室に持ってきた。教師は透明な飼育ケースにカマキリを入れ、幼児に見えやすいところに置くと、**すぐに数名の幼児が飼育ケースを取り囲んで見始める**。幼児は、「わぁすごい。動いた!」「目が大きい。」「シューンって長いおひげがあるよ。」「手がギザギザでシャキーン。」と言いながらカマキリの前足と同じように手を動かしている。

カマキリを見ていた幼児の一人が、**以前、遊びで使ったことのあるカラーセロハンを貼ったメガネを選んで付けると、「カマキリだ。」**と言いながら**カマキリになりきって動く**。カマキリの大きな目を見て、メガネを付けることを思い付いたようだ。

楽しい雰囲気教師と周りの幼児は笑い合い、同じようにメガネを付けてカマキリになりきって動き始める。

触角を付けたいと思い付いた幼児がメガネに紙テープを貼るが、柔らかい紙テープは張りがなく垂れ下がってしまうため、次に細長い画用紙を選んで貼る。画用紙はピンと立ったので、「これがいい。」とうれしそうに2枚目を貼る。同じように画用紙を貼り付ける幼児や、貼るのが楽しくてたくさん付ける幼児もいる。製作コーナーにあるくるくる棒を手の甲に付け、「**シャキーン、シャキーン。**」と言いながら**カマのように腕を振りかざす幼児**もいる。

2人の幼児がつい立てで囲った場を**カマキリの家にする**ことを思い付き、**ごはんをつくり始める**。「**ぼくは赤ちゃんカマキリ。**」「**ごはんですよ。**」などと言い、他の幼児と同じ場にいる雰囲気を楽しむ。

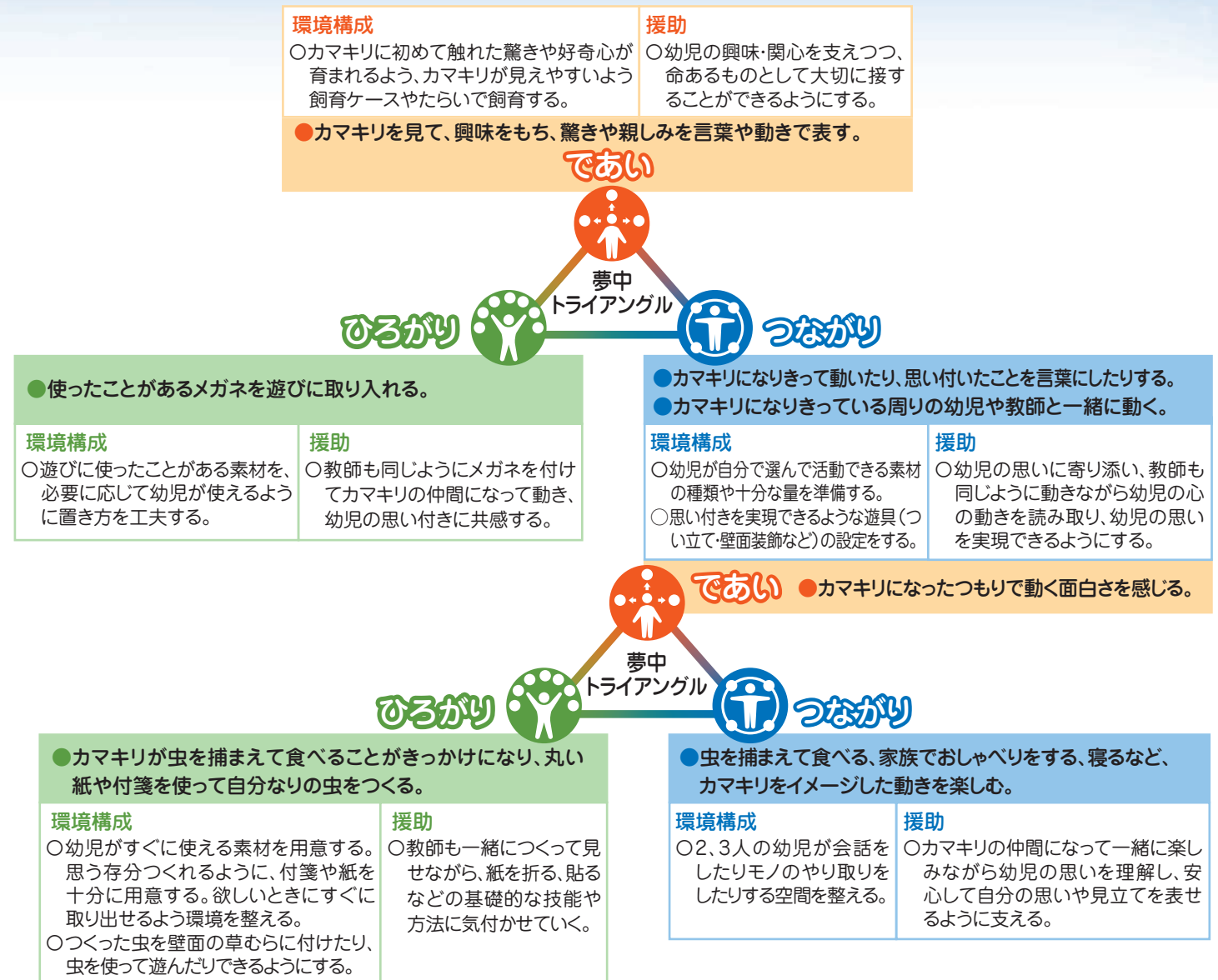
学級で見た紙芝居で、カマキリが昆虫を食べることに驚き、興味をもった幼児が多かったため、教師は壁面装飾を草むらにして、丸い画用紙でつくった虫を幼児が見付けられるように隠しておく。カマキリになったつもりで壁面の草に触れ、虫に気付いた幼児が、「虫がいる!」「虫をつかまえて食べちゃう!」と言いながら虫を集める。

丸い画用紙に細長く切った付箋を使って足や触角を付けて**虫づくりを始める幼児や、自分なりにかぶりものをつくる幼児**もいる。



事例分析 夢中トライアングル「カマキリになりたい!」

本物のカマキリを間近で見たり触れたりする体験を通して、幼児の心が動き、つい動きをまねてカマキリになりきって遊ぶ幼児の「夢中」を支えた環境構成と援助を探る。



● 考察

【**幼児の姿**】カマキリに興味をもち間近で見たり触れたりしたことから、以前、使ったことがあるメガネを身に付けることを思い付き、カマキリになりきって動くことや周りの幼児と同じように動くことに面白さを感じている。カマキリになったつもりで動くことや、他の幼児と同じようにメガネを付けて動くこと、カマキリから連想した別の虫をつくるなど、個々に楽しんでいることは違っているが、カマキリから発したイメージでつながって動く雰囲気を楽しんでいる。

【環境構成と援助】

- 本事例ではカマキリとの関わりという偶発的な出来事を教師が見逃さず、幼児の感じる面白さや不思議さに共感的に関わる援助が幼児の夢中になる姿につながった。虫や草花などの身近な自然に親しめるよう、計画的に自然環境を整備していくことも重要である。
- 教師は幼児の動きやつぶやきから、その思いやイメージなどの内面を理解し、遊びのきっかけになりそうな素材などを何気なく用意しておく。その際、すぐにつくって遊べることや基礎的な技能の獲得を意識し、幼児がやりたいと思ったときに自分の好きなモノを選んでつくることのできる素材や用具、場を身近なところに設定する。

● 3歳児で大切にしたいこと

- 幼児一人ひとりが安心して人・モノ・コトに関わることができるようになるには、ありのままの表現を受け止めたり、寄り添ったりする教師との信頼関係が基盤となる。
- 一人でも他の幼児とでも夢中になって遊べるようについ立てやゴザ、机などを使って、幼児が自分の場として安心して動けるように環境を整えることが大切である。段ボールで囲まれた狭い空間は落ち着くことができ、2、3人のやり取りが活発になるときもある。
- 園庭の自然環境での偶発的な発見から生き物に関心をもつきっかけを大切にする。読み聞かせや写真の掲示などから幼児の興味・関心が持続し、好奇心が高まるような働きかけを工夫する。



事例2 4歳児 9月「恐竜だよ!」

幼児の夢中の“時” **であい** **つながり** **ひろがり**

▶ 幼児の育ち

自分の思いを表して遊びながら、気の合う友達と簡単なイメージが重なる楽しさを感じる時期

▶ 前日までの幼児の姿

園庭で数人の幼児が走り回るうちに、A児が恐竜の前足のように両手を構えて「ガオー。」と言いながら友達を追いかけ始めると「恐竜が来た!」と言って他児が逃げる。このような追いかっこの続き、それが楽しかったのか、A児は保育室の製作コーナーに行くと恐竜のお面をつくった。

▶ 教師の願い

- 自分なりのイメージをもち、見立てたりなりきったりする楽しさを味わってほしい。
- 自分の思いを表し、友達とイメージが部分的に共通になる楽しさを感じてほしい。

▶ 製作コーナー

- *素材は必要に応じて補充する。時には別のものを工夫して使えるよう補充を控えることも配慮する。
- *幼児が自分で探したり選んだりでき、友達と同じようにつくりたいという思いを実現できる量や数の素材や用具を準備しておく。
 - ・扱いやすい八つ切りの半分の大きさのいろいろな紙(新聞紙・画用紙・お花紙など)・お面ベルト
 - ・腰ベルト・セロハンテープ・紙テープ・ポリエチレンテープ

▶ 幼児の姿

お面をかぶり恐竜のように歩く**A児を見てB児C児が「恐竜だ!」と言って喜び**、2人も自分なりのお面をつくって歩き始める。教師は「強そうな恐竜だ。」と驚いて見せると、3人はさらに力強く歩く。**B児は「恐竜はすごい爪があるよ。」**と言い、紙を丸めて指に付けると、他の幼児も同じように爪を付ける。**C児は「恐竜にはしっぽがあるよ。」**と言い、製作コーナーで紙テープを適当な長さにちぎると、セロハンテープで腰のあたりに付けようとしたので、教師は腰ベルトにしっぽを貼って身に付ける方法を提案する。C児は「**まだ子どもの恐竜だから小さいしっぽなの。**」とつぶやき、**満足気にポーズをとったり歩いたりして動き始める**。教師は中型積み木で木をつくっておく。3人は恐竜になって保育室の中をぐるりと歩き、教師がつくった木のところまで来ると**葉を食べる振り**をする。保育室の中を歩き回り、葉を食べるという一連の動きを3人で一緒に繰り返して楽しむ。

教師は緑色のマットを壁際に置き、「このマット、原っぱみたい。」とつぶやくと、3人は「それ、使う!」と喜んで木の近くに緑色のマットを広げる。「森だ。」「もっと運ぼう。」と言い、さらにマットや巧技台を運び込み、**恐竜が住む森のイメージで場をつくる**。

B児が「(恐竜がいるところは)**火山があるんだよ。**」と**新たな思い付きを教師に伝える**。「火山ってどんなのかな。」と教師が聞くと身振りで伝えようとするが、明確なイメージはないようだったので、恐竜の絵本を3人の幼児と一緒に見る。「これこれ。」と山が噴火している場面を見て3人は喜び、**中型積み木と赤いフープを運んできて積み重ね、「これが火山!」と言う**。教師は「いいね!」と受け止め、「これは火山なんだって。すごいね。熱いね。」と周りで遊んでいる幼児にも伝えるように話す。それを聞いて幼児は互いに笑い合い、楽しい雰囲気が生まれる。「ごつごつした感じにしたい。」「赤くて火みたいにしたい。」と**火山のイメージをそれぞれ言う**。教師は、幼児の思い付きが実現することで遊びのイメージが共有され楽しくなるのではないかと考え、「ごつごつしているのは岩かな?」「この紙をごつごつつけてしたらどうかな。」と言い、ラシャ紙を「ごつ、ごつ。」と言いながらくしゃくしゃにして見せる。幼児は「それがいい。」と言い、**次々に紙を丸めてごつごつした火山の場をつくる**。3人は**火山や森の周りを歩き、坂道を登ったり下ったりして楽しむ**。C児は赤いフープをゆっくり上げたり下げたりする。それをまねてB児も「火山が噴火するよ。」と言い動かす。今度はC児が「きゃー。」と言い逃げる。A児は「恐竜の王様だから大丈夫。」と火山の近くに力強く立つ。**それぞれの思い付いたイメージで動くことを楽しむ**。

製作コーナーで製作をしていた幼児が恐竜になって遊ぶ幼児に見とれている。しばらくすると、「お肉だよ。」と言いながら紙でつくり始める。別の場所では中型積み木で温泉の湯船をつくる幼児もいる。「温泉ですよ。」という声を聞き、恐竜の幼児が温泉に入りに来る。

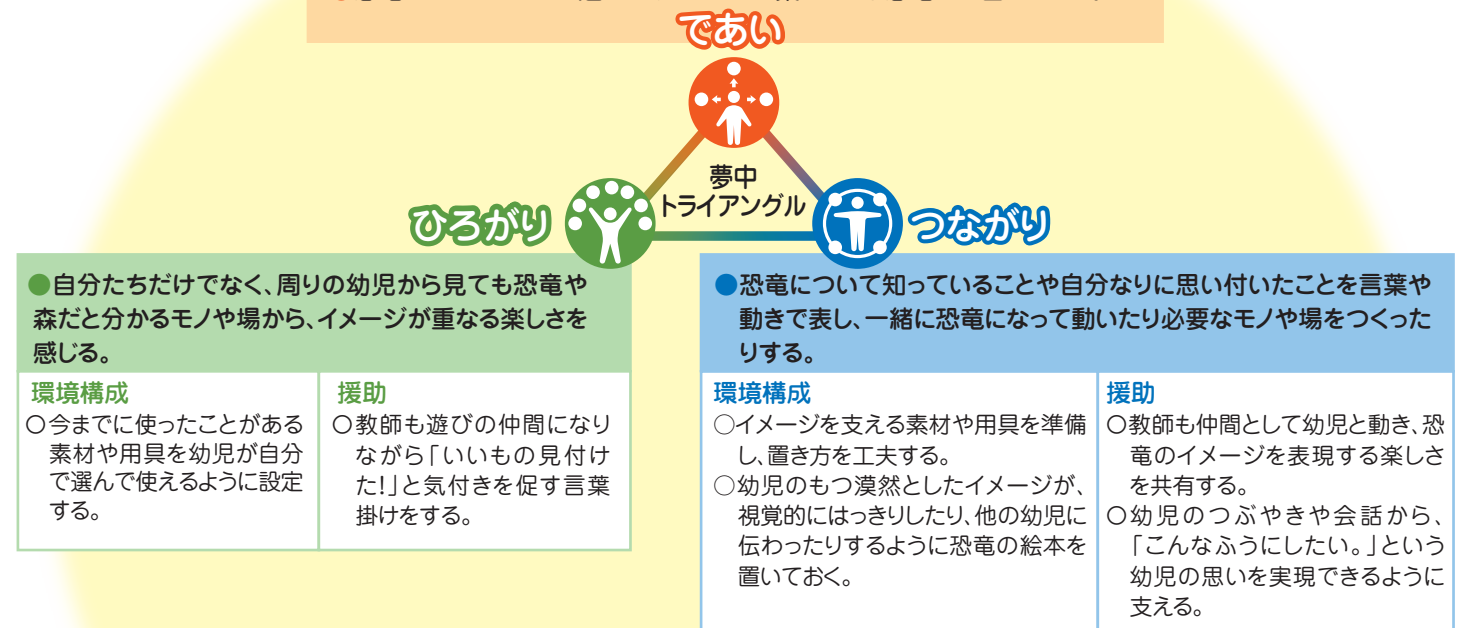


事例分析

夢中トライアングル「恐竜だよ!」

恐竜になりきった幼児の動きがきっかけになり、興味をもった幼児が大まかなイメージを共有しながら、恐竜になったつもりで動くことを楽しむ「夢中」を支えた環境構成と援助を探る。

環境構成 ○追いかっこのから思い付いた恐竜のお面づくりを実現できるように、製作コーナーの素材や用具を整えておく。 ●恐竜のつもりになって追いかっこのをした楽しさから恐竜のお面をつくる。	援助 ○幼児の発想を受け止め、一緒に面白がる。
--	-----------------------------------



恐竜になって遊ぶ幼児だけでなく、「恐竜」という大まかなイメージを感じて個々の幼児が遊び始める。



● 考察

【**幼児の姿**】恐竜のお面や恐竜が住む世界の火山などを自分なりに思い描いてつくことで、友達と遊びのイメージが部分的に共通になり、恐竜のようになりきって動くことを楽しんでいる。恐竜のごはんづくりや温泉の場づくりを始めた幼児は、恐竜のように振る舞って動く友達のイメージから自分の遊びを始めて楽しんでいる。

【**環境構成と援助**】

- 本事例では恐竜になりきって動く中で、恐竜の世界に必要なものを思い付いてつくり、次の遊びのイメージが生まれていった。これまで使ったことがある素材や用具に加え、幼児のイメージに合う素材やつくり方を教師が提案し、幼児が選択できるようにすることも大切である。
- 恐竜になったことをきっかけにごはんづくりや温泉という遊びが展開された。幼児同士の関わりが生まれ、遊びのイメージが部分的に重なるようになることを意識した環境構成や援助が大切である。

● 4歳児で大切にしたいこと

- 幼児がイメージを実現しようとする過程で、幼児自身の力で解決に近付いていくために、幼児が「自分でできた。」「いいこと考えた。」と感じられる環境構成や援助の工夫が必要である。
- 一人ひとりのイメージを支える環境構成や援助と同時に、関心のある他の幼児も含めた幼児同士で大まかなイメージが共通になるように、遊びの動線や幼児の視線に配慮して環境を整える。
- 一緒に遊んではいないが周りの遊びに関心をもつようになる4歳児では、遊びで展開されているテーマの絵本などを学級全体に読み聞かせしたり、遊びの様子を紹介したりすることで、他の幼児の遊びを知る機会となり、幼児の興味や関心が広がることもある。

事例3 5歳児 4月「空き箱でこんなのつくりたい！」

幼児の夢中の“時”  **であい**  **つながり**  **ひろがり**

▶ 幼児の育ち

新しいことを自分の生活に取り入れながら、意欲的に遊びや生活を進めようとする時期

▶ 前日までの幼児の姿

進級後、自分たちの生活の場を整え、園生活に必要な活動にも取り組み、新たな環境に慣れてきた。3人の幼児は製作コーナーにある素材を使って小さな人形をつくり、気の合う友達関係の中での安定感を楽しんでいるが、遊びの目当てを模索しているようにも感じられた。

▶ 教師の願い

○自分なりの目当てをもち、イメージを実現する楽しさを感じてほしい。

▶ 製作コーナー

*これまで使い慣れた素材や用具を整える。

*不足している素材や、必要になった用具を幼児から伝えてくるのを待って補充することも配慮する。

・幼児の活動を予想して、いろいろな大きさの空き箱を多めに用意しておく。

▶ 幼児の姿

翌日、3人の幼児はそれぞれ自分の人形の家を空き箱でつくり始める。「2階建ての家にしたい。」という目当てはあるが、どうすればよいのか分からずあきらめそうだったため、箱の三面に切り込みを入れる方法を提案すると、**2階建ての家のつくり方が分かり**、喜んで取り組む。2階建ての家ができたことで、「すてきな家にしたい。」という思いが膨らみ、製作コーナーのカラービニールやお花紙を使って**家の装飾や家具をつくる**。同じように人形と家をつくる幼児が増え、**人形を介したやり取りを楽しむ**。保育室の一角で人形の家の遊びは1週間続く。

箱を切って半分に折り曲げるつくり方が面白かったのか、いろいろな形や大きさの箱で試してみる幼児もいる。半分に折り曲げて手にはめて動かし、箱の面がぶつかる音を聞いて楽しむ幼児や、「**パクパクしている!**」と箱の動きに喜ぶ幼児もいる。製作コーナーで目と耳をつくって貼り付け、「私のネコちゃん!」と口をパクパクさせて教師に紹介する幼児もいる。「ネコちゃん、こんにちは。お出掛けですか?」とやり取りをしていると、その様子を見ていた周りの幼児も同じようにパクパクする人形をつくり始める。教師はつくった人形で遊べるように、製作コーナーの近くに人形劇の舞台を設定しておく。

舞台上でパクパク人形を動かしながら、「こんにちは。一緒に遊びましょう。」「そうね。何して遊ぶ?」などと**幼児同士のやり取り**が始まる。一人がパクパクと動かしながら歌い始めると、同じように動かして**一緒に歌うことを楽しみ、友達とのつながりを感じている**。友達と、**パクパク人形が並んで入れる家をつくり、片付け時にも大切に置く**。

学級のみんなが集まったときに、「**パクパクちゃんの歌の発表会**」を行い、つくったモノで遊ぶ姿を紹介する。箱を切って折り曲げる方法や工夫をしたところ、できたときの喜びなどを、つくった幼児に教師が尋ねながら、聞いている友達に遊びの楽しさが伝わるようにする。

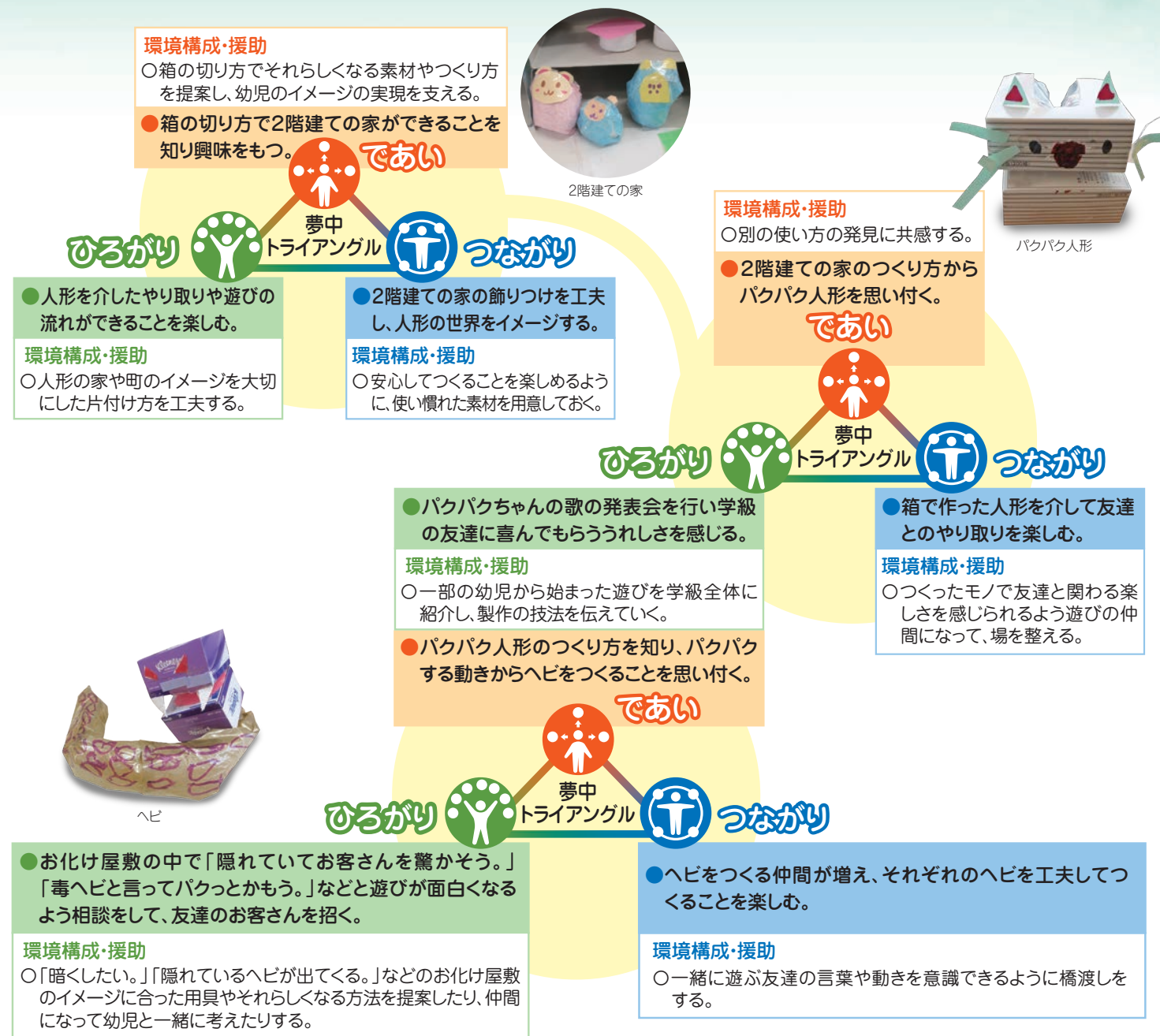
つくり方に興味をもった幼児が、「ヘビにもなるかな。」とつぶやき、**いろいろな大きさの箱で試す**。「薄い箱がちょうどいい。」と喜び、顔をつくる幼児や、ヘビの「**長い体もつくろう**。」と取り組む幼児もいる。教師は幼児のイメージに合う材料を選べるように整理して置いたり、作り方をいくつか提案したりする。

同じようにヘビをつくる幼児が増え、3匹のヘビができあがる。ヘビをパクパクさせながら、ヘビをつくった友達と積み木で**お化け屋敷をつくる**ことを思い付き、お客さんとして友達を呼ぶ。お客さんが来ると積み木の陰からヘビを出して「毒ヘビだ。パクパク。」「きゃあ。面白い。」と賑わいが生まれ、**楽しい場ができた満足感や、お客さんに楽しんでもらったうれしさ**を感じている。



事例分析 夢中トライアングル 「空き箱でこんなのつくりたい!」

空き箱の新たな使い方を知ったことをきっかけに、イメージを表現したり考えを出し合ったりして遊ぶ幼児の「夢中」を支えた環境構成と援助を探る。



● 考察

【**幼児の姿**】空き箱の新たな使い方を知ったことをきっかけにイメージをもって遊び始め、自分の目当てに向けて工夫してつくることを楽しんでいる。つくったモノを介して友達と思いを出し合い、遊びを楽しくするための考えを思い付き、友達と一緒に進める楽しさを感じている。

【**環境構成と援助**】

- 空き箱の切り方で形状が変化することに面白さを感じ、その形から見立てを楽しんだ。教師は幼児の思い描くイメージと技能の育ちを理解し、少し難しいけれど取り組むことで実現できそうな素材や用具、方法を一緒に考えたり提示したりしていくことが必要である。
- 人形やヘビを「つくって遊びたい。」と思ったときに、友達と一緒に考えたり相談したりして取り組むことで、遊びがより楽しくなる経験を積み重ね、友達との関わりを育てていく援助が大切である。

● 5歳児で大切にしたいこと

- 遊びに必要なモノをつくるために自分で素材や用具を選んだり、少し難しい方法にも挑戦したりする経験を大切にする。
- 同じ目当てに向かって遊び、自分の思いや考えを互いに伝え合う姿を大切にする。必要に応じて問いかけや共感の援助をしながら、幼児同士が遊びを通してつながりを深め、達成感や喜びを感じられるようにする。
- 素材や技法による偶然の美しさ、規則性や法則性の面白さにも気づき、予想したり試したりして表現する楽しさを感じられるような経験を積み重ねていく。

夢中アイテム (教材研究)

幼児と教材との関わりについて理解を深め、幼児の遊びが展開し充実していくよう、「であい」「つながり」「ひろがり」の視点から素材や用具の在り方について教材研究をしました。

教材研究

パルプ粘土

ちぎったちり紙を浸して、もみほぐせばトロトロとした感触が楽しいです。ギュッと絞れば自分の好きな形になり、失敗感がなく安心して触れられ変化を楽しめます。感触や色そのものを楽しみ、豊かな感性や表現する力が育まれます。

環境設定
・水に溶けやすい紙
(ちり紙、トイレットペーパーなど)
・お花紙(半分サイズ)
・水 ・洗濯のり ・透明カップ ・混ぜ棒
・茶こし、ネット ・バケツ



1 ちり紙をちぎるのが面白いのであつという間に山盛りの量ができる。



2 水を入れ、ちり紙が溶けるようにかき混ぜる。トロトロとした感触を繰り返して楽しむ。



1 パルプ粘土に色を付けることもできる。透明カップにちり紙とお花紙をちぎって入れて、混ぜ棒でかきまぜて自分だけの色をつくるのも楽しい。



2 洗濯のりを少々加えて混ぜ、茶こしでこし、丸めたり、平たく伸ばしたり、型に押し込んで形をつくらたりすることもできる。



3 遊びに必要なモノを考え、色や形を工夫して、本物みたいなおすしができて大喜び。

「何だろう?」「きれい。」「面白そう。」「やってみたい。」「と感じられ、感触の心地よさがある。

であい



ひろがり

感触を楽しみながら、予想したり、試したりしてつくり、様々な気付きや自分なりの表現につながる。

つながり

色を付けたり混ぜたり、形にしたりして自分なりに工夫し、表現を楽しむことができる。

教材研究

ビニールと絵の具

水性絵の具に台所用洗剤を少し加えると、ビニールにかくことができます。絵の具の混ざり方や垂れ方が紙とは違うので、ビニールにかくことに興味をもち「どうなるだろう?」と予想したり試したりできる教材です。透明ビニールの両面から取り組めることにも気づき、友達と面白さを共有する姿も見られます。

環境設定
・絵の具 ・絵の具を溶く水(水:台所用洗剤=5:1)
・透明ビニール(戸外の固定遊具などを利用して設定)や
ビニール傘
・透明カップ ・カップホルダー ・筆、はけ



「ビニールにかけるのかな?」という意外さを感じ、「面白そう。」「と興味をわく。戸外で取り組めばのびのびと解放感もある。

であい



ひろがり

色の混ざり方の面白さを感じ、表現を楽しむことができる。

つながり

不思議さや疑問を感じて試すことができる。



1 大きな透明ビニールに絵の具で のびのびとかく。



2 色が混ざったり絵の具が垂れたりすることが面白い。



3



4 みんなで大きなビニールを なびかせて大喜び。

教材研究

生活素材

生活の中には様々な容器や素材があふれています。空き箱や牛乳パックは家庭の協力で集まりやすく、幼児が思い切りたくさん使ってつくって遊べる教材です。遊び終えたモノは素材としてまた使えるように、自分たちでテープや装飾をきれいに貼ってはがしてリサイクルすれば、また新たな遊びが生まれます。

環境設定
・種類ごと、大きさごとに分けていることが視覚的に伝わる表示を素材置き場に付け、幼児が自分で選んで使えるようにする。
・生活素材を使ってつくったモノで遊んだ後の片付けは、次に遊ぶときの環境構成となる。幼児のイメージに合う置き方や片付け方を工夫する。

箱や容器の形からイメージして見立てたり、繰り返しつくったりできる。「これを使おう。」と自己決定ができる。

であい



ひろがり

箱や容器があることで友達とイメージを伝え合うことができ、新しい考えを取り入れたりより面白くしようと取り組んだりできる。

つながり

箱や容器を切ったり貼り付けたりして、自分のイメージに向けて考えたり工夫したりできる。

空き箱を使って

小さい箱は幼児にとって操作しやすいので、ラップフィルムの箱を4等分に切っておき、同じ大きさのものをたくさんそろえておく。「いっぱい箱で何をしようかな!」とわくわくして遊びが始まる。切った箱を裏返しに組み立てれば無地になり、三角に組み立てたものがあると遊びのイメージが広がる。



箱の三面に切り込みを入れ、切り残した一边を折り曲げる方法も遊びのイメージを広げる。

幼児の実態に応じて、あらかじめ切っておく。ハサミが使えるようになったらティッシュペーパーの箱の取り出し口の穴からハサミを入れて切る。ハサミを使いこなせるようになったら箱の角をつまんで切り口をつくる方法も伝え、自分でつくる喜びを感じられるようにする。

箱を2階建ての家をしている。つくり方を幼児同士で伝え合い、友達のアイディアを取り入れながら自分なりの工夫をすることが楽しい。

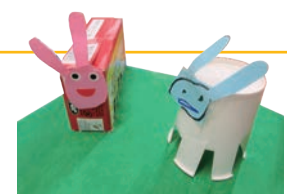


1月に地域の獅子舞に触れると、パクパク人形の動きを思い出し、獅子頭をつくる。これまでの体験から箱に穴をあけ、耳にひもを通せば動くようになる。



紙コップを使って

紙コップに切り込みを入れて内側に折り込むと人形の足になる。ペットとしてかわいがったり、動物園をつくらたりして楽しめる。牛乳パックや空き箱でもつくることことができる。



弾まない! ボール

新聞紙は幼児にとって操作しやすいので、びりびり破いたり、折りたたんだり、いろいろな遊び方ができます。たくさん遊んでしわしわになった紙は「くしゃくしゃ」「ぎゅっ」などオノマトベを使って丸めてテープでくるんだり、ビニール袋に入れて口をとめたりすれば簡単に楽しくボールをつくることができます。

・新聞紙や広告紙など
・セロハンテープ ・ビニールテープやカラーガムテープ
・ビニール袋



簡単に作ることができる新聞紙ボールは、つくると思わず投げてみたくなり、繰り返し投げることを楽しむことができる。

であい



ひろがり

新聞紙を固く握ったボールとふんわり握ったボールでは、ボールを投げたときの速さや力強さに違いがあることに気付き、遊びの面白さに合ったボールを試行錯誤しながらつくろうとする。

つながり

すぐに拾って投げられるのでボールを介して友達や教師とのやり取りが活発になる。

投げてみよう

新聞紙ボールはゴムボールと違って遠くまでは転がらず、幼児がすぐに拾ってまた投げられるため遊びが活発になる。しっかりつかんで投げることができ、自分でつくればお気に入りの模様も付けられる。



いろいろな大きさや形の新聞紙ボールはイメージも生まれる



模様を付けたらサッカーボール。「ぼくはサッカー選手!」



握れる大きさのボールは野球。「キャッチボールが面白い」



平べったい形はフリスビー。「こうやって投げたらどうなるかな?」と
いろいろな投げ方を試す。



飛ばしてみよう!

輪ゴムを使った発射台をつかって球を飛ばすことが楽しく、飛ばす角度やゴムを引く力加減などを試しながら夢中になります。

手持ち発射台

トイレットペーパーの芯に短く切ったストローを3cm出してセロハンテープで付ける。紙を丸めてつくった球に輪ゴムを貼って、ストローに引っ掛けて飛ばす。



手持ち発射台

置き型発射台

土台となる箱に新聞紙を巻いてつくった棒(軸)を付け、棒の先に短くくるくる棒を付けた輪ゴムを付ける。飛ばすものはトイレットペーパーの芯のロケット。くるくる棒にロケットが引っかかるように差して引っ張り下げて、手を離す。ロケットは勢いよく飛び出す。



置き型発射台

球を飛ばすことができる仕組みを知り、興味をもつ。

であい



ひろがり

別の遊び方を考えたり遠くへ飛ばすために試行錯誤したりして、次の目当てを探したり、競ったりする楽しさ味わう。

つながり

飛ばす動きから飛行機やロケットなどをつくることを思い付き、材料の選択やつくり方を工夫する。



ロケット



かぶりもの

幼児は、具体的なモノを手掛かりにして自分自身のイメージを表現し、何かになりきって遊ぶことを楽しみます。

なりきるためのかぶりものは、幼児の発達や実態、イメージなどに応じて、いろいろな方法や材料を考えます。

・紙
・お面ベルト(4つ切り画用紙の長い辺を幅3cmに切ったもの) 輪ゴム ・ステープラ
・牛乳パックなど

個々の思い付きが実現できる。何かに興味をもって何かになりたいと思い付いたときに、すぐにつくって身に付けられる。

であい



ひろがり

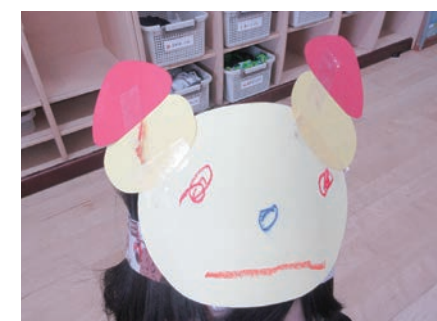
かぶりものからイメージが友達と共有され、互いの考えを伝え合いながら遊びの状況をつくり出す。もっと面白くしようと考える。

つながり

かぶりものを身に付けられ、何かになりきっている気持ちが盛り上がり、イメージの中で表現したり考えたりする。

○△の紙を使って

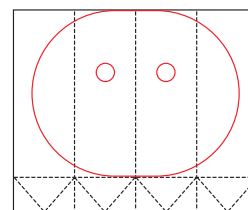
入園したばかりでハサミが使えないときでも、丸や三角の形から思い付いて自分なりのお面をつくり、何かになることが楽しい。



牛乳パックを使って

牛乳パックは幅が幼児の目の間隔に合うのでお面やメガネをつくるのにぴったり。

牛乳パックの底が中心になるように切り開き、くちばしになるように丸めればトリのかぶりものができる。



牛乳パックを切り開いて止め合わせると帽子ができ、頭部分の牛乳パックには耳などを付けることができる。カラーポリ袋などでもくめば、幼児のイメージが表現できる。



夢中になって遊ぶ幼児の“時”を通して 幼児期に育まれる資質・能力

本研究では、幼児が夢中になって遊ぶとき、「であい」「つながり」「ひろがり」の3つの“時”を行き来しながら遊びを進めていると捉え、幼児の姿を読み取り、その夢中を支えた環境構成と援助について考察してきた。

つくって遊ぶ場面における夢中の“時”の中で育まれる資質・能力と大切にしたい環境構成と援助は次のとおりである。



であい

幼児は憧れの人や魅力的なモノ・コトとの「であい」から興味や関心をもち、環境に関わっていく。面白そうに遊ぶ人は魅力ある対象となり、楽しい雰囲気を感じて周囲の幼児も仲間に加わり遊び始める。また、新たな素材や用具そのものや、モノの新たな使い方や技法に面白さや美しさを感じ、幼児の「やってみたい」という思いは高まる。社会の出来事や絵本の世界、自然事象には気付きや発見があり、これらの「であい」から遊びは始まる。

この「であい」を豊かにするために大切にしたい環境構成・援助は、次のとおりである。

- ・幼児の興味や関心に添って教師も同じように興味をもって応じるなど、幼児の驚きや好奇心を共有し、思いの表出を肯定化する。
- ・「やってみたい」「つくりたい」と思った幼児が取り組めるように、十分な量の素材や用具を用意する。
- ・自然現象などの偶発的な出来事では、機会を逃さずに教師自身が興味をもって保育に取り入れる。
- ・いろいろなモノを工夫してつくる体験を重ねるうちに、道具を自在に使えるような技能の獲得に配慮する。



つながり

幼児は同じ興味をもった友達や仲間としての教師と一緒に遊ぶ中で、動きや言葉などを使って人・モノ・コトと「つながり」を深めていく。見立てやすい素材や用具などのモノがあると幼児は想像したことをすぐに実現したくなる。絵本の世界や他児の言葉や動きから思い描いたコトは、幼児の想像の世界を膨らませ遊びを豊かにしていく。幼児は、人・モノ・コトとの「つながり」の中で、感じたことや考えたことを自分なりに表現し、「どうしてだろう?」「こうしたらどうなるだろう?」など思考力を働かせながら、同じ興味をもつ幼児や周りの幼児と関わる中で心を通わせる体験を重ねる。

この「つながり」を豊かにするために大切にしたい環境構成・援助は、次のとおりである。

- ・幼児が友達とのつながりを感じながら遊びに取り組めるよう、幼児の視線、動線を意識した環境設定をしたり、互いの思いや考えが伝わるように橋渡しをしたりする。
- ・幼児が思い付いたことを実現できるように、素材や用具を自分で選び、試せるように準備したり、幼児の経験や発達に応じて準備や提案の仕方に配慮したりする。
- ・幼児のイメージを引き出したりつなげたりするためには、イメージに添うテーマの絵本を置いたり読み聞かせをしたりするなどして保育に取り入れる。



ひろがり

幼児はこれまでの経験をもとに使えるモノや知っているコトを取り入れながら遊びを進めていこうとする。自分とは違う考えを取り入れたり試行錯誤したりして、「もっとこうしてみよう!」と新しい考えを生み出すことを楽しむ。他者と考えを出し合い受け入れ合ったり、うまくいかないことも経験したりしながら、人・モノ・コトとの関わりがひろがっていく。

この「ひろがり」を豊かにするために大切にしたい環境構成・援助は、次のとおりである。

- ・幼児同士が互いの考えに気付く機会をつくり、葛藤する気持ちを味わったり克服していこうとする意欲を育んだりして、自分たちの遊びや生活の中で、自らの中に芽生えた課題の解決に向けて必要なことを考えられるようにする。

- ・幼児のこれまでの経験が遊びに生かされるように、使ったことのある素材や用具はいつでも使えるように置いておいたり、幼児に要求されたときにすぐに対応できるように準備したり、これまでの体験を思い出せるように投げかけたりする。
- ・園内外での活動（遠足、小中学生との交流、地域の方々とのふれあいなど）は幼児にとって共通体験となることを踏まえ、意図的に計画する。

3つの“時”における幼児の育ちと環境構成・援助の在り方を捉えることで、以下のように、幼児が夢中になってつくって遊ぶことの意義や教師の役割について考察を深めた。

遊びの中で幼児がモノに関わり、つくって遊ぶ経験は、幼児にとって重要な学びを得る機会である。幼児が遊びに必要なモノをつくるという行為そのものが、モノやコトに主体的に関わることだからである。モノをつくる行為そのものは個別の動きであるように見えるが、つくったものを身に付けたり、つくったものを使ったりすることによって生まれる動きは、個別の動きであることを超え、同じ動きをする他者との関わりをもたらす。モノをつくることがきっかけになって遊びが始まり、さらに必要なモノをつくることが繰り返されて、次のイメージが生み出され、それが他の幼児に伝わって遊びは展開する。

幼児が自由で豊かな発想から遊びをつくりだすとき、教師は様々な役割を担っている。共に遊ぶ仲間、遊びのモデルとしてであいを支える役割、新しい何かを提示する提案者としてつながりを支える役割、幼児が新しい世界へとひろがろうとする際に困ったときの助っ人として思いの実現を支える役割など、その役割は直接的に幼児と関わって果たすこともあれば、遊ぶ環境を整える準備など、間接的に環境構成や周りの状況を巻き込んで果たすこともある。幼児の姿を3つの“時”から理解し、教師の役割を果たすための土台となるのは、教師が幼児にとって安心して自分の思いを表現できる存在となることである。そのためには教師は画一的な表現を促すのではなく、幼児の表現を尊重し、受容し、認めながら幼児の表現の楽しさを共有することが重要である。

幼児自身が面白がっていることを理解し、より豊かな体験ができるような環境構成と援助を考えることが夢中になって遊ぶ幼児を支えるために大切である。

小学校との接続

幼児が夢中になって遊ぶ中で、自分で選び、自分で決めることを大切にしたい環境は、幼児の主体性を支えるために重要である。幼児が「やってみよう!」と思ったその“時”、「どうしよう?」と思ったその“時”、「いいこと考えた!」と思ったその“時”こそ、幼児は人・モノ・コトと主体的に関わり、気付いたり考えたり関連付けたりしながら、知識や技能の基礎を身に付け、思考力や表現力の基礎を培い学んでいく。

このような学びは、小学校以降の主体的な学び、探究的な学びにおいてとても大切になる。就学前教育施設での遊びを通した学びを大切にすることは小学校への円滑な接続につながる。

成果と課題

つくって遊ぶことは、幼児が自分の思いや考えをありのままに表現することができる主体的な活動である。幼児が夢中になって遊ぶために、幼児が素材や用具、遊びの場を選択できるように環境構成を工夫することの重要性を改めて学ぶことができた。幼児が夢中になっている“時”を視点に保育を考え、幼児の興味や関心などを読み取り、幼児のつぶやきに耳を傾け、表情や行動から思いを捉え、寄り添うことで、幼児の表現したいことの実現に向けた環境構成や援助の在り方や工夫について考えることができたことは研究の成果である。

しかし、教師による素材や遊び方などの提案の仕方によっては、教師主導で保育を展開していたり、幼児の思いを誘導したりしていることに気付いた。逆に幼児の思いや考えを優先するあまり、教師が環境構成の工夫や援助の機会を逸してしまうことにも気付いた。幼児の主体性と教師の意図が絡み合って成り立つ保育を行うためには、教師が幼児理解を深め、幼児の育ちの姿をイメージしながら、意図やねらいをもって環境構成と援助を行う必要がある。幼児の思いを尊重し、寄り添いながら柔軟に保育を展開していくことが今後の課題である。

予想外の幼児の発想、偶然の出来事、または突発的な状況を“夢中のたまご”として捉え、これから始まる夢中を共に楽しみにしたり探したりできる、あたたかな学級経営を心掛けたい。

これからも幼児が夢中になっている“時”を捉え、幼児理解に努め、ありのままの表現を楽しめるような環境構成と援助の在り方を見直し、より夢中になって遊ぶことができる豊かな遊びを支えるために、教師自身の資質向上に努めていく。